

これまで本県からは知られていなかった。今回南木曾町から採集された。オクマワラビは全県に広く分布しているが、オオクジャクシダは少なく、木曾、下伊那、北安曇、下高井、下水内から知られている。この中で木曾南部では割合多い。

〔採集記録〕 木曾郡南木曾町大妻籠（大塚11108, 1983. 11. 6. SHIN）。

4. オオハナワラビ

Sceptridium japonicum (Prantl) Lyon

本種は本州、四国、九州に広く分布するが、暖帯を中心に産し、本県にはあまり知られていない。本県における産地について最近の文献を見ると、「長野県植物総目録」には記録されておらず、「長野県の植物」には下伊那南部があり、また「信濃植物誌」には下伊那南部の他に小県と南安曇がある。「下伊那の植物」（1973）にはいくつかの産地が記録されている。

筆者はこれまで下伊那南信濃村で採集したのみであるが、信大標本庫（SHIN）には奥原先生が採集した木曾の標本がある。今回、野沢温泉村東大滝で採集した。付近にはイワガネソウ、クラマゴケ、ヒロハトウゲシバ、ヌリワラビ、オオヒメワラビ、ヤワラシダ等の暖帯性シダがあり、千曲川下流域に

おける暖帯性シダの分布が注目される。

ところで、オオハナワラビ、フユノハナワラビ、エゾフユノハナワラビは互によく似ていて混同されて認識されていることが多い。県の中中部や海拔の高い地域で報告されたオオハナワラビは再検討の要がある。

〔採集記録〕 野沢温泉村東大滝（大塚11050, 1983. 11. 3, SHIN）。木曾山口村黍生（奥原弘人, 1976. 9. 23, SHIN）。

参 考 文 献

- 千村速男, 1972, 長野県木曾谷における暖帯系のシダ, 日本シダの会々報2(9): 8-9
倉田悟, 1960, シダ類ノート(20), 北陸の植物, 8(2-4): 80-86
大塚孝一, 1982, 長野県産羊歯植物目録, 長野県植物研究会誌15: 12-18.
杉本順一, 1966, 長野県植物総目録, 長野林友
高橋秀男・中村武久・平林国男, 1969, 白馬・後立山連峰とその東方山麓のフロラ, 神奈川博研報1(3): 1-83
横内斎, 1971, 長野県の植物, 信教出版
——, 1983, 信濃植物誌, 信濃植物誌刊行会

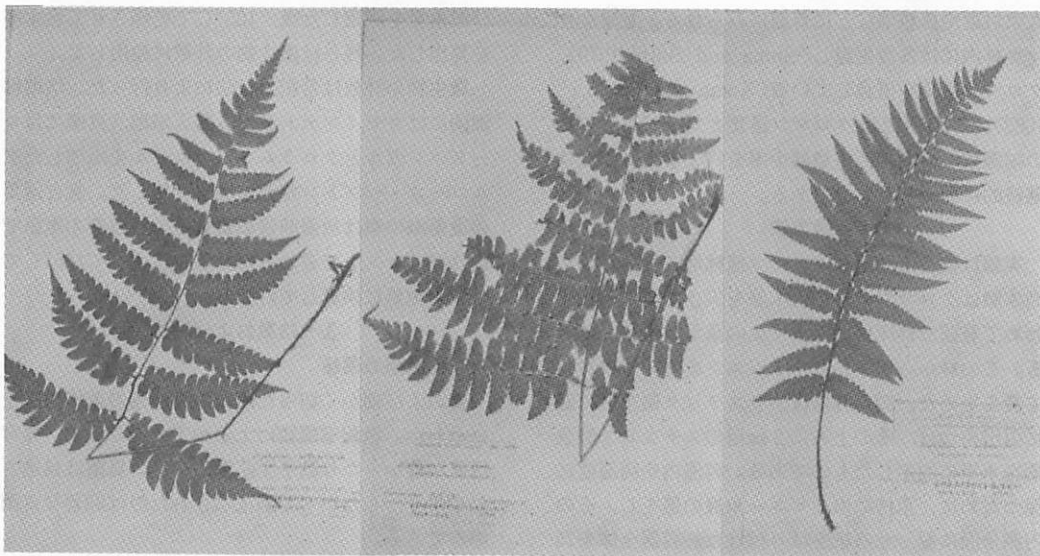


写真2. ウスバミヤマノコギリシダ

写真3. ダンドシダ

写真4. ハコネオオクジャク

〔植物ニュース〕74. フキ *Petasites japonicus* (Sieb. et Zucc.) Maxim.

フキの性表現は複雑であることが知られている。つまり、不稔性の両性花のみから成る頭花をもつ株と、稔性のある多数の雌花と不稔性の少数の両性花

から成る頭花をもつ株がある。後者の場合、両性花は頭花の中心に1.2個、株によっては10個ほどある。キク科には、雌性同株や雌性異株の種は多いが、フキの場合はさらに複雑で、私は、雌性異株の変型とみなしている。(清水建美)